

令和 5 年 第 2 回 定 例 会

一 般 質 問 通 告 書

白 井 市 議 会

## 令和5年第2回定例会 一般質問一覧表

質問日	質問番号	氏名	質問事項
6月21日	1番	古澤由紀子 議員	1. 第2期笠井市政について 2. 白井市に於ける高齢者福祉について
	2番	徳本光香 議員	1. 文化センターの今後について 2. PTAのあり方について 3. 駅周辺の環境整備について 4. 新型コロナ交付金を使った対策の総括と今後について
	3番	久保田江美 議員	1. 主要農産物のブランド化について 2. コミュニティ・スクールについて
	4番	石井恵子 議員	1. 市長の政治姿勢について 2. 空き家対策について 3. 防災・減災対策について
	5番	伊藤仁 議員	1. 廃棄物の焼却禁止について 2. 都市公園について
6月22日	6番	荒井靖行 議員	1. 桜台小中学校給食のありかた検討委員会のあり方について 2. 教育委員会の運営方針について 3. 千葉ニュータウン中央駅北口駐輪場の料金負担問題及び印西市長との連携について 4. クーリングシェアの整備状況について
	7番	根本敦子 議員	1. 加齢性難聴者への支援について 2. 農家支援について 3. 市内の交通安全について
	8番	石田里美 議員	1. 市の高齢者対策について 2. 空き家問題について
	9番	平田新子 議員	1. 新型コロナウイルス感染症が、5類となったことに伴う市の対応について 2. 人口減少・少子高齢化の中で、市民の暮らし易さをどう担保していくのかについて 3. 生物多様性の観点で市の豊かな自然環境の保全について
	10番	広沢修司 議員	1. 新たな価値を創造するまちづくりについて
6月26日	11番	長谷川則夫 議員	1. 公園緑地管理委託、街路樹管理委託契約について 2. 剪定作業や草刈りの対応について 3. グランピング施設の誘致または設置の可能性について
	12番	武藤美砂子 議員	1. 小学校区まちづくり協議会について
	13番	柴田圭子 議員	1. 市民参加について 2. まちづくりにおける制限と誘導について
	14番	田中和八 議員	1. 今後の行財政運営について 2. 企業誘致の進捗状況について
	15番	石原淑行 議員	1. 白井市の目指すまちづくりについて

質問事項	質問要旨
1. 第2期笠井市政について	(1) 第2期笠井市政へ継続する上で修正、変更を加える点は何か (2) 財政との見通しを、どうとらえているか (3) 白井市の4年後、そしてその先の姿をどう描いているか
2. 白井市における高齢者福祉について	(1) 現状と課題 (2) その対応と対策

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 文化センターの今後について</p>	<p>文化センターの4施設、図書館、文化会館(大・中ホール)、郷土資料館、プラネタリウムの今後について、市が設置した「あり方検討委員会」で拡大・維持・縮小・廃止のうちどうすべきかについての議論が終わり、全体として存続はするが経費節減のために各施設の機能を一部縮小・廃止するべきという答申が出されました。その後、教育委員会でも一度議論され、あり方検討委員会がプラネタリウムについては「存続」と「廃止」に絞れず両方記載したことについて、教育委員会ではプラネタリウムは「存続」するが「一部機能は縮小・廃止を検討」と意見がまとまりました。これら会議の進め方や記録の仕方、方針の内容の意味、今後の市民参加について市の考えを問います。</p> <p>(1) 議事録の作成段階で、実際の発言と議事録の内容がちがう部分があるのはなぜか</p> <p>(2) 教育委員会の方針にある各施設の「機能の一部縮小・廃止」とは具体的に何を意味すると考えるか</p> <p>(3) 市の方針を決める前に、どう市民の意見を聴取するか</p>
<p>2. P T Aのあり方について</p>	<p>国内で、P T Aの強制加入や、学校の「第二のサイフ」とも言われているP T Aから学校への寄付、学校協力費の使い道について問題が指摘されています。そこで白井市の実態について問います。</p> <p>(1) P T A加入の任意性についてどう考えるか</p> <p>(2) 市内小中学校における、保護者のP T A加入の手順は</p> <p>(3) 市内小中学校のP T Aの学校協力費の使い道は</p>
<p>3. 駅周辺の環境整備について</p>	<p>白井駅・西白井駅周辺の橋や広場について、市民が使いやすく過ごしやすい環境整備について問います。</p> <p>(1) 各駅の橋の整備を平等に行うべきでは</p> <p>(2) 駅前に人が集まりやすい工夫をしては</p>

4. 新型コロナ交付金を使った対策の総括と今後について

国からの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（コロナ交付金）の使い道について、市長が度々議員に提案を求め、採用してきたことをとても評価しています。一方で、市民の声も取り入れ、総括を行って今後に生かすことも大切と考え、市の考えを問います。

- (1) 新型コロナの扱いが変わった今、交付金を使った公園看板の後は。
- (2) コロナ交付金を使った対策についての総括は

質問事項	質問要旨
<p>1. 主要農産物のブランド化について</p>	<p>白井の梨のブランディングについて質問させていただきます。</p> <p>白井市は、全国有数の梨の産地であり、千葉県の中でもトップクラスの産出額を誇る、市の主要農産物です。</p> <p>近隣市に比べて、「白井の梨」としてのブランド力が弱いと消費者への認知度が低いと見受けられます。その為、ブランド化をすることによる販売単価のアップという点が弱いように思われます。また、農業従事者の高齢化による人手不足や後継者不足の影響もあり、梨産地として現状を維持していくことは困難を極めます。そのような中で、引き続き梨産地として事業を継続することは可能なのか。今後、更に深刻な事態を招く恐れはあるのか懸念されます。</p> <p>そこで、以下の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 白井の梨について、現状をどのように分析していますか。</p> <p>(2) 白井の梨について、消費者への認知度は、どのように把握していますか。</p> <p>(3) 白井の梨のブランド化について、どのように事業を展開していきますか。</p> <p>(4) 梨農家の安定した収入を確保するため、支援していく必要はあると思いますが、市としての対応はどのように考えていますか。</p>

2. コミュニティ・スクールについて

昨今、千葉県内の小中学校においても、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置が進められています。

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民等が一定の権限や責任を持って、学校運営に参画する仕組みで、保護者や学校に対して様々な効果が期待されています。

国の計画では、「全ての公立学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入することを目指す」としており、市の教育振興基本計画においても、コミュニティ・スクールの設置に向けて検討していくことを定めているところです。

そこで、以下の点についてお伺いします。

- (1) コミュニティ・スクールについての基本的な考え方についてお聞かせください。
- (2) コミュニティ・スクールの設置に向けたプロセスについてお聞かせください。
- (3) コミュニティ・スクールに関する財政的支援についてお聞かせください。

質問事項	質問要旨
<p>1. 市長の政治姿勢について</p>	<p>先の市長選挙で、無投票ながら2期目の当選を果たされた笠井市長。 本市は、これからの4年間さらに少子高齢化が進み人口減少が懸念されるなか、白井市の将来像を実現するための最上位計画である第5次総合計画の総仕上げと第6次総合計画への取り組みが控えています。市長は、まさに大事なこの4年間に取り組む5つの施策の柱を発表されましたが、その中で以下の3点について伺います。</p> <p>(1) 子どもを大切にしたまちづくりについて (2) 人生100年時代に合った健康なまちづくりについて (3) 農・商・工のバランスとともに緑と都市が調和したまちづくりについて</p>
<p>2. 空き家対策について</p>	<p>数年にわたり人が住んでいる実態のない空き家は、敷地内の草や樹木が生い茂り近隣住民の安心・安全を脅かしています。総務省が実施した「住宅・土地統計調査」では、平成30年の空き家数は全国で約848万9千戸、空き家率は13.6%で過去最高となりました。2015年(平成27年)に全面施行された空き家対策の推進に関する特別措置法は、立ち入り調査や倒壊の恐れのある「特定空き家」に対する除却等の命令、さらに代執行まで可能としました。しかし、今後も居住目的のない空き家が増えることを踏まえ、特定空き家になる前の段階で対策を強化していくべきです。本市において、平成30年2月に「白井市空き家等対策計画」が策定され取り組みを進められてきたところですが、本年(令和5年)3月「第2次 白井市空き家等対策計画」が策定されました。今後、白井市の空き家対策をどのように進めていくのか、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 本市の空き家の状況の変化について (2) 「白井市空き家等対策計画」の5年間の検証と成果について (3) 「第2次 白井市空き家等対策計画」の改善点について (4) 空き家等対策の推進に関する特別措置法改正案について</p>

### 3. 防災・減災対策について

毎年訪れる梅雨の季節になると大雨の心配や局地的な豪雨をもたらす線状降水帯の発生などによる内水氾濫の心配があります。また、令和元年の台風15号、19号の襲来時には近年経験したことのない大風で倒木や飛来物による停電が発生しました。いずれの場合も家の中では防災行政無線が聞こえにくいといった不安な声を聴きます。

そこで防災・減災対策として以下の点について伺います。

- (1) 内水ハザードマップについて
- (2) 停電時の対応について
- (3) 防災行政無線について

質 問 事 項	質 問 要 旨
1. 廃棄物の焼却禁止について	(1) 行政、市民の認識が違っているのではないか。
2. 都市公園について	(1) 今後の整備予定はありますか。

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 桜台小中学校給食のありかた検討委員会のあり方について</p>	<p>本件につき以下の通りお尋ねいたします。</p> <p>(1) 令和4年第4回定例会12月1日柴田議員の一般質問にて、桜台小中学校自校式給食廃止の判断にあたり、井上教育長が「政治的中立でございます。政治に左右されないということが教育委員会制度の第一義である」と発言されました。教育長が発言された「政治的」の意味をご説明ください。</p> <p>(2) 教育長は桜台小中学校給食あり方給食委員会の運営にどのように関与されましたか。</p> <p>(3) 同検討委員会の運営は、委員間の分断を助長させ、民主的な運営ではありませんでした。検討委員会を再度実施する考えはありませんか。</p> <p>(4) 令和4年第4回定例会にて給食センターで発生する20%の食べ残し改善について「改善は難しい」との回答がありました。自校式給食では発生していない食べ残し改善策について、回答から6か月経過した現時点では、どのように考えていますか。</p> <p>(5) 令和4年7月8日市長と教育長に提出された桜台小中学校自校式給食継続の4,008筆の署名に対し回答がありません。どのように回答されますか。</p>
<p>2. 教育委員会の運営方針について</p>	<p>教育委員会会議を傍聴し教育委員会会議の議事録を拝見しました。</p> <p>(1) 教育委員会会議運営方針についてお聞かせください。</p> <p>(2) 教育長として自由闊達な意見が出るように、職場環境改善に向けてどのように工夫されていますか。</p>

<p>3. 千葉ニュータウン中央駅北口駐輪場の料金負担問題及び印西市長との連携について</p>	<p>印西市が2007年に開設した千葉ニュータウン中央駅駐輪場は882台（全体の46%）を白井市民が利用しております（2023年1月実績）。年間契約1台10,800円は印西市民の倍であり子育て世代を中心に経済的に大きな負担になっており、駐輪場利用を諦める住民がいます。尚、西白井駅駐輪場は年間契約4,000円となっています。この差は桜台地区在住の市民にとっては重大な不平等となっています。尚、西白井駅にある3カ所の駐輪場の市外利用者は80台（全体の3%）に留まっています。</p> <p>(1) 15年間も継続している千葉ニュータウン中央駅駐輪場料金の不平等を解消する予定はありますか。</p> <p>(2) 印西市とは印西市役所のBCP問題解決など互いに協力すれば解決可能な問題があると考えられます。市長間での定期的にシャトル外交をする予定はありますか。現状も含めてお考えをお聞かせください。</p>
<p>4. クーリングシェルターの整備状況について</p>	<p>熱中症対策を強化する改正気候変動適応法が4月28日に成立しました。これにより「熱中症特別警戒情報」が新設され、市長は来年度までに冷房の効いた公民館や図書館、ショッピングセンターなどを「クーリングシェルター」として指定し、特別警戒情報が出ているときに一般に開放することになりました。今年は猛暑が予想され、その対応は急務と考えます。そこで質問いたします。</p> <p>(1) 今年の夏に対応できるクーリングシェルターの施設の整備状況は</p> <p>(2) 水分補給の準備状況は</p> <p>(3) 特別警戒アラートが発生した場合の周知方法は</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 加齢性難聴者への支援について</p>	<p>我が国の総人口に占める65歳以上の割合は28%を超え超高齢化を迎えています。そのような中、他者からの情報や思いを受け取り、人と人とのコミュニケーションを支える重要な機能である聴覚について、加齢による難聴が増加しています。高齢による聴覚機能低下はうつや認知機能の低下や転倒のリスクと関係があると言われ、将来介護が必要になります。厚労省の新オレンジプラン資料2（P-6）でも、遺伝性、高血圧、糖尿病、喫煙、頭部外傷、と「難聴」等が認知症の危険因子であると書かれています。認知症発症予防の取り組みとして、市の見解を3点お聞きします。</p> <p>(1) 高齢者が加齢性難聴になっても生活の質を落とさず社会参加するため、適切な補聴器を購入し継続して使用できる仕組みづくりが求められているが、市の見解は</p> <p>(2) 加齢性難聴者への補聴器購入助成制度を行っては</p> <p>(3) 加齢性難聴予防の早期発見のために聴覚検査の導入を考えては</p>
<p>2. 農家支援について</p>	<p>物価高騰による農家の実情と、農業後継者づくりについて白井市として真剣に支援する必要性など。</p> <p>(1) 梨やブドウなどの作物を台風その他の害から守る「多目的防災網」への補助を再開する考えは</p> <p>(2) 高額な「農機具」購入や修理への一定の補助を行う考えは</p> <p>(3) 白井の農業を守るためにも就農希望している人と廃業を考えている農家とのマッチング事業が必要と考えるが、市の考えは</p>
<p>3. 市内の交通安全について</p>	<p>生活道路の安全・安心対策</p> <p>(1) 市民から横断歩道や信号設置、カーブミラー等市内で早期に対策を行ってほしい交通安全対策についてどのような対策を講じていますか。</p> <p>(2) 今年から努力義務になった自転車用のヘルメット購入への助成を考えていますか。</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 市の高齢者対策について</p>	<p>世界一65歳以上の人口の割合が高い日本では、現在超高齢化社会対策が、さまざまな角度から取り上げられています。白井市の令和5年度地域別高齢化率のデータも示されています。</p> <p>そこで次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 市の今後の超高齢化に向かう対策はどのような事を基本に考えていくのかお伺いします。</p> <p>(2) 第8期白井市高齢者福祉計画・白井市介護保険事業計画の策定に向け、色々なアンケート調査結果報告が記載されていますが、外出手段も大きな課題の一つになっています。市は公共交通の一環としてデマンドバスの対策をどのように考えていますかお伺いします。</p>
<p>2. 空き家問題について</p>	<p>市の空き家問題については、議会でも取り上げられてきましたが、令和5年3月第2次白井市空家等対策計画による現状と課題によると、「今後も進む少子高齢化や人口減少から、戸建て住宅の空き家が急激に増加することや、近年発生する災害の激甚化によって空き家の傷むスピードが加速化することが懸念されています。」とあります。「さらに、近隣住民の生活環境に悪影響を及ぼすような腐朽・破損の状態にある空家総数のうち、戸建が占める割合が約7割であることから、戸建の空家への対応が課題となっています。」とあります。そして総務省の平成30年、住宅・土地統計調査による市の住宅状況及び一戸建ての空家数のデータが示されています。</p> <p>そこで次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 平成30年以降も空家が増えて来ている中で、市はどのように状況を捉えていますか。</p> <p>(2) 解決に至った例、または市民の苦情に対応した例についてお伺いします。</p> <p>(3) 市長自ら白井市空家等対策協議会の会長であることから、市民の方々の声も含め、市の空家問題に対する今後のお考えについてお伺いします。</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 新型コロナウイルス感染症が、5類となったことに伴う市の対応について</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、令和5年5月8日に、2類相当（新型インフルエンザ等感染症）から、5類感染症へと移行されました。</p> <p>5類感染症への移行により、市民の生活や活動、地域のイベント等が活性化していくのは、非常に喜ばしいことです。一方、感染リスクがゼロになったということではないため、何かにつけて戸惑う市民も多く、市の対応の変化について伺います。</p> <p>(1) 5類感染症となった新型コロナウイルス感染症への白井市での対応を伺います。</p> <p>(2) 感染者・濃厚接触者への対応について、市の体制を伺います。</p> <p>(3) 令和5年春開始接種の予診票（6回目等のワクチン接種のお知らせ）が、すでに高齢者などには届けられています。今後のワクチン接種について、申請窓口他の縮小や変化について伺います。</p> <p>(4) 小中学校・幼保育園など教育現場での対応について伺います。</p> <p>(5) 感染予防の意識を解くわけにはいきませんが、企業や商店ではアクリルボードを取り外す傾向が強い中、単に、廃棄となれば、焼却され炭素を多く排出してしまいます。3Rの観点で、再資源化する処分方法についての市の考えを伺います。</p>
<p>2. 人口減少・少子高齢化の中で、市民の暮らし易さをどう担保していくのかについて</p>	<p>人口減少や少子高齢化、特に異次元の少子化は、日本の将来の存亡にもかかわる大きな問題です。</p> <p>令和5年4月に「こども基本法」が施行され、同月、子どものための政策をまとめて行う総理大臣直属の行政機関として設立された「子ども家庭庁」では、各省庁に子ども政策の改善を求めることができる「勧告権」を持っています。</p> <p>白井市でも笠井市長は「次世代に過度の負担を負わせない」との姿勢を表明されており、市が現在だけではなく将来を見据えた中長期的観点を持つことは非常に重要なことだと痛感する昨今です。</p> <p>また、自治体同士で定住人口を確保する時代から、加えて関係人口を増やしていくことが経済産業省などからも求められており、白井市の弱点克服にも必須の要素です。</p>

	<p>こういった状況を踏まえて、市民の暮らしやすいを今後どう担保していくのかを伺います。</p> <p>(1) 第5次総合計画後期の3年目を迎えている中で、年齢あるいは世代ごとの人口推計と、人口推移の推移をどの様に捉えているのかについて伺います。</p> <p>(2) 人口減少を食い止めるためのこれまでの市の施策とその効果について伺います。</p> <p>(3) 人口減少・少子高齢化の課題は、各課の施策に大きな影響を及ぼしていくものと予想できます。白井市の今後をどのように分析し、市民の暮らしやすさをどのように担保していくのか、市の考え方を伺います。</p>
<p>3. 生物多様性の観点で市の豊かな自然環境の保全について</p>	<p>生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の第六次戦略「生物多様性国家戦略2023-2030」では、人類がこれまで通りの社会経済の仕組みを継続することは既に難しい局面を迎えている中で、自然資本を守り活かす社会経済活動、つまり、自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブ（自然再興）で2030年までに自然の損失を停止、または反転させることを記しています。</p> <p>1993年発効の国際条約「生物多様性条約」では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性を掲げており、日本は同年5月28日に締約国となり、現在までに194の国と地域がこの条約を批准しています。</p> <p>SDGsのゴール【14：海の豊かさを守ろう・15：陸の豊かさも守ろう】などの観点からも、動植物から菌類などの微生物まで、地球上に生息するすべての生き物を主体に考えた「生物多様性」は、今や世界的なキーワードとなっており、企業や個々のレベルで、開墾・外来種・地球温暖化・里山の変化に対処していくことが求められています。</p> <p>白井市の魅力豊かな自然の中にこそ、生物多様性に対する取組みが活かせる場所が多く見いだせると思いますので、その状況を伺います。</p> <p>(1) 白井市での生物多様性の現状をどのように把握していますか。</p> <p>(2) 生物多様性の調査をもとにした今後の計画を伺います。</p> <p>(3) 「生物多様性」活動に対して、環境省では令和</p>

5年度「生物多様性保全推進交付金」、また、企業からも多種多様な補助金が出ています。白井の自然の豊かさをより具体的にブラッシュアップしていくために、こういった財源を有効に活用してはいかがでしょうか。市の考えを伺います。

質問事項	質問要旨
<p>1. 新たな価値を創造するまちづくりについて</p>	<p>令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまでの2類相当から5類感染症に移行されました。厚生労働省によると、今後の感染対策は、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした対応に変わるということです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が確認されて3年余り、緊急事態宣言などの制限・制約をされる中、8回にわたる感染拡大の波を乗り越え、私たちのまちもにわかに活気づいて参りました。</p> <p>全国各地でもイベントが開催されればコロナ以前にも増して多くの人が集まり、その賑わいを見ると、如何に人々がこの時を待ちわびていたのかという事を実感する次第です。</p> <p>しかしながら、このような景色は、表層であり、人々の深層心理においては、大きな変化が起こりつつあるのではないのでしょうか。</p> <p>それは、近年の社会状況の変化、つまり、これまでいわれてきた人口減少問題に加え、激甚化する自然災害やコロナ渦で顕在化した、あらゆる問題により、人々の意識や価値観が変容しつつあり、多分野にわたり、成長・拡大路線から、持続可能性を模索する動きへの転換と活発化に見てとる事ができます。</p> <p>このようなことから、以下、社会心理を捉えた新たな価値を創造するまちづくりについて、具体的に現状の認識と課題を明示し、今後の市政への取組みについて、私が公約に掲げた5つの観点から市の見解を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子育て・教育環境の充実について</li> <li>(2) 地域経済の成長について</li> <li>(3) 防災・防犯力の強化について</li> <li>(4) 幸せを感じられる福祉・介護施策について</li> <li>(5) 新たな価値を創造する行政運営について</li> </ol>

質 問 事 項	質 問 要 旨
1. 公園緑地管理委託、街路樹管理委託契約について	(1) 公園緑地管理委託、街路樹管理委託の発注にあたっての考え方を伺います。 (2) これまでの市内業者による管理業務の状況は
2. 剪定作業や草刈りの対応について	(1) 剪定された枝や刈り取った草等の処理方法を伺います。 (2) 公園緑地、道路での作業仕様書の内容を伺います。
3. グランピング施設の誘致または設置の可能性について	(1) グランピング施設を市ではどのように捉えていますか (2) グランピング施設の誘致または設置の可能性は (3) 国道16号線や464号線など、首都圏からの集客の考え方 (4) グランピング施設と農産物販売連携について

質問事項	質問要旨
<p>1. 小学校区まちづくり協議会について</p>	<p>少子高齢化や生活スタイルの多様化、地域のつながりの希薄化、コロナ化の影響などにより生活環境は大きく変化しています。また、昨今、全国的に災害が頻繁に起こり、人のつながりや支え合いが、いざという時の安心、安全にもつながると思います。</p> <p>白井市のプロジェクトの一つに小学校区まちづくり協議会があります。市民が主役となり互いに協力連携し、地域課題の解決や魅力づくり、ひいては地域コミュニティの活性化が期待され、重要課題でもある災害時の自助、共助体制づくりにもつながると考えるため設立に力を入れているとあります。</p> <p>現在、白井第二小学校区、大山口小学校区、白井第三小学校区に設立されています。</p> <p>推進小学校区として、南山小学校区、清水口小学校区と決定し、南山小学校区では設立に向けて動き出していることを大変に喜ばしいことと思います。設立に向けては、地域の特色や、様々な課題等がある中、さらに、まちづくり協議会を推進していくためにお伺いいたします。</p> <p>(1) 小学校区まちづくり協議会の現状について  (2) 設立後の問題点や課題  (3) 設立するための認知度を高める施策</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 市民参加について</p>	<p>白井市では、平成16年に市民参加条例が制定され、毎年度市民参加推進会議による評価が行われています。</p> <p>しかし市民参加の考え方、規定されている事項など改めて考えてみる必要はないでしょうか。</p> <p>市長の考え方を伺います。</p> <p>(1) 市民参加をどのように考えるか                  (2) 市、市民の位置づけは                  (3) 市民参加の方法と進め方は適切か                  (4) 改善の必要性は                  (5) 自治基本条例の制定は</p>
<p>2. まちづくりにおける制限と誘導について</p>	<p>白井市では、市街化区域はもとより、市街化調整区域においても、地区計画の運用基準を定め都市マスタープランに則ったまちづくりを進めています。</p> <p>(1) 高齢化が進む中で、まちづくり計画を担当する部局と高齢者福祉を担当する福祉部局の連携が必要です。有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、特別養護老人ホームなどの老人ホームやデイサービスなどの通所施設等、市は将来の高齢者人口や介護ニーズに応じたサービス体制をどのように整えていきますか。</p> <p>(2) 市街化調整区域におけるゾーニングから外れている地域についてどのように考えているか伺います。</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 今後の行財政運営について</p>	<p>先日の市長選挙・市議会議員選挙において、新たな4年間は、白井市の将来を決定づける4年間だと私は認識しています。</p> <p>公共施設の老朽化による補修費、印西クリーンセンター建て替えにおける莫大な負担金等、歳出が大幅に増えることは明らかです。“もっと豊かな白井市の実現へ”が笠井市長の公約のキャッチフレーズになっています。</p> <p>私は、長いお付き合いをさせていただいている笠井市長に白井市を豊かな市にしてくれた市長になっていただきたいと思っています。</p> <p>このことを実行するために市長は将来に向け、白井市、白井市民のため何を実行してくれるのか、以下の点について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人口政策について</li> <li>(2) 歳入について</li> <li>(3) 休耕地の有効利用について</li> <li>(4) 千葉県から都市建設部長に伊藤部長を招いた目的・期待感について</li> </ul>
<p>2. 企業誘致の進捗状況について</p>	<p>今後、歳出増が確実視されていることから、白井市の売りである国道16号、北千葉道路があり、災害にも強く、電力インフラも整っており、成田空港滑走路の延伸、新設工事も始まり令和9年には完成します。</p> <p>これらのことから地区まちづくり協議会所有の土地利用が開発業者にとっても魅力的な事業であり、企業誘致により新たな歳入増が期待できると考えます。そこで以下の点について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 白井市企業誘致基本方針について</li> <li>(2) A地区の進捗状況は</li> <li>(3) E地区の進捗状況は</li> <li>(4) 谷田・清戸の森整備事業の進捗状況について</li> <li>(5) J地区の今後の土地利用について</li> </ul>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 白井市の目指すまちづくりについて</p>	<p>白井市は現在、人口減少、少子高齢化が進み、労働力人口の減少、公共施設や道路の老朽化等、今後の市の安定した財政に様々な課題が見えてきています。そうした中、本市は第5次総合計画基本構想に掲げた「ときめきと みどりあふれる 快活都市」の実現に向け、後期基本計画に基づき政策を進めています。後期基本計画の終了する令和7年度まで3年弱となりました。</p> <p>白井市の目指すまちづくりについて、以下の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 白井市の将来像と市長から見る現在の白井の状況について</li> <li>(2) 令和2年度に行った都市マスタープランの改定について</li> <li>(3) 産業振興ビジョンについて</li> <li>(4) 白井市の企業誘致について</li> <li>(5) データーセンターについて</li> <li>(6) 白井市以外でのデーターセンター誘致の例について</li> </ol>